

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和元年8月31日※1
(前回公表年月日:平成30年8月31日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
仙台医健・スポーツ&こども専門学校	平成19年3月29日	学校長 仁田 新一	〒984-0051 宮城県仙台市若林区新寺2丁目1-11 (電話) 022-292-2141																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人滋慶文化学園	平成8年3月22日	理事長 覚野 博夫	〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町21-2 (電話) 092-263-6747																																
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																														
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツ科学科		平成21年文部科学省 告示第21号																															
学科の目的	本校は、教育基本法に則り、学校教育法に従い並びに文化・教養専門課程を設置し、プロのアスリートから一般成人、高齢者、障がい者、子どもに至るまで、運動やスポーツを通じて健康に貢献できる知識・技術を備えた運動指導のプロを養成する。																																		
認定年月日	平成27年2月17日																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	1,740時間	780時間	1,335時間	300時間	0時間	0時間																												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																														
80人	62人	0人	4人	24人	28人																														
学期制度	■1学期:4月1日~9月30日 ■2学期:10月1日~3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末に行う試験、実習の成果、履修状況、出席状況等を総合的に勘案																															
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月6日~8月16日 ■冬季:12月23日~1月6日 ■学年末:3月12日~4月10日		卒業・進級条件	出席率と学科試験により、必要な単位を取得している事。																															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任より学生及び保護者への連絡、三者面談や学生相談センター(SSC)の利用		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学友会 ■サークル活動: 有																															
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) フィットネスクラブ、医療施設、接骨院、老人介護保険施設 ■就職指導内容 合同企業説明会(年2回開催)、就職出陣式、就職模擬面接会 ■卒業生数 : 28 人 ■就職希望者数 : 24 人 ■就職者数 : 24 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 85.7 % ■その他 (平成30年度卒業生に関する 令和元5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>健康運動実践指導者</td><td>③</td><td>20</td><td>20</td></tr><tr><td>スポーツリーダー</td><td>③</td><td>20</td><td>20</td></tr><tr><td>傷害者スポーツ指導者 初級指導員</td><td>③</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>アクアウォーキング インストラクター(AQWI)</td><td>③</td><td>7</td><td>6</td></tr><tr><td>SAQインストラクター レベル1</td><td>③</td><td>24</td><td>24</td></tr><tr><td>JDACダンス指導員I</td><td>③</td><td>10</td><td>10</td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	健康運動実践指導者	③	20	20	スポーツリーダー	③	20	20	傷害者スポーツ指導者 初級指導員	③	3	3	アクアウォーキング インストラクター(AQWI)	③	7	6	SAQインストラクター レベル1	③	24	24	JDACダンス指導員I	③	10	10
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																
健康運動実践指導者	③	20	20																																
スポーツリーダー	③	20	20																																
傷害者スポーツ指導者 初級指導員	③	3	3																																
アクアウォーキング インストラクター(AQWI)	③	7	6																																
SAQインストラクター レベル1	③	24	24																																
JDACダンス指導員I	③	10	10																																

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 1 名 ■中退率 2 % 平成30年4月1日時点において、在学者51名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者50名(平成31年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談、学費相談(分割納入や奨学金等)、保護者面談、三者面談、学生相談センター(SSC)、補習授業</p>
<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: <input type="radio"/>有・無 滋慶奨学金 ■専門実践教育訓練給付: <input type="radio"/>給付対象・<input type="radio"/>非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: <input checked="" type="radio"/>有・<input type="radio"/>無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p>URL:http://www.sendai-iken.ac.jp</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

保健・医療・介護予防・福祉・スポーツなどの幅広い分野で、クライアントや社会から必要とされ信頼される人材を養成するため、学校の教職員と業界で活躍している兼任教員(非常勤講師)が授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会を開催しています。また、教職員による実習先の訪問や企業訪問を通じて、業界の変化やニーズ等情報を収集し、現場で即戦力となるための教育課程を編成しています。また、在校生による授業評価を年2回実施し兼任教員(非常勤講師)へ結果をフィードバックしています。更に、教育課程編成委員会においては、兼任教員(非常勤講師)以外の業界関係者からの意見も教育内容に反映させることを目的としています。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本校の教育課程編成委員会は理事会の基に設置され、委員会の適切な運営は理事長が担保することになっています。よって、学校が編成した教育課程案は、教育課程編成委員会に付議し、必要な場合は理事会・評議委員会においても決議されます。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
寺澤 豊志	公益財団法人 宮城県柔道整復師会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	①
岩井 晃	医療法人社団太長会 浅沼整形外科	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
渡邊 好孝	一般社団法人 宮城県理学療法士会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	①
黒後 卓也	社団医療法人 康陽会 中嶋病院	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	②
矢萩 裕	山形県トレーナー協会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	①
江澤 尚徳	グラン・スポールあすと長町	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
小林 茂樹	宮城県眼科医会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	①
丸林 彩子	埼玉医科大学総合医療センター	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
吉田 孟史	学校法人 滋慶文化学園 常務理事	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
仁田 新一	仙台医健・スポーツ&こども専門学校 学校長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
池田 圭一	仙台医健・スポーツ&こども専門学校 事務局長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
羽田 智大	仙台医健専・スポーツ&こども専門学校 教務部長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
川村 一之	仙台医健・スポーツ&こども専門学校 学科長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
藤村 真仁	仙台医健・スポーツ&こども専門学校 学科長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
片岡 洋樹	仙台医健・スポーツ&こども専門学校 学科主任	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
田所 雅弘	仙台医健・スポーツ&こども専門学校 学科主任	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
年間開催数及び日開催時期:年2回6月3月に開催。また、委員会欠席者に対しては個別に意見聴取を行うなど、必要に応じて適宜分科会を開催する場合があります。

(開催日時)

第1回 平成30年6月30日 14:00~15:30

第2回 平成31年3月30日 17:00~18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
委員からは、「コミュニケーション力の更なる向上」「社会人基礎力の向上」などのご意見を頂いた。また、フィットネスクラブ施設としてエアロビクスを軸としたグループエクササイズを指導できる人材育成をお願いしたいとのご意見も頂いた。これらを基に、入学当初より挨拶を基本とした人間教育の更なる実践と、一般教養にてコミュニケーションスキルアップ検定対策授業に取り組んでいます。また、エアロビクス担当の非常勤講師(兼任講師)とは、講師会を開催して今後の授業概要等について再検討するようになっています。更に、令和元年度より大幅な教育課程変更に伴いスポーツマネジメントを新たに開講し、フィットネスマネジメント検定資格取得を目指します。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

教育課程に基づいて学外実習を実施し、教育課程における位置付けや成績評価基準、意義についても明確にしています。また、実施要領・マニュアル等を整備し運用しています。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業より、実習生受け入れ承諾書を受領したうえで、現場の実習指導者が実習指導を行っています。また、実習指導要領に基づき履修規定を定め、実習の目的及び目標を明確にし評価基準を定めています。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
業界研修Ⅰ	志望する業界で研修を行い、これまで学んだ知識・技術を実践で確認することにより、就職活動に繋げる。	株式会社ダンロップスポーツウェルネス、株式会社グラン・スボール、仙台市スポーツ振興事業団、他19施設
業界研修Ⅱ	志望する業界で研修を行い、これまで学んだ知識・技術を実践で確認することにより、就職活動に繋げる。	株式会社あおやぎフィットネススタジオスポーツプラス、株式会社コンプリートケア、他20施設

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園の定める教員研修規定において、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めています。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

「第7回日本アスレティックトレーニング学会学術大会」(連携企業等:日本アスレティックトレーニング学会)

期間:平成30年7月7日(土)~8日(日) 対象:日本アスレティックトレーナー学会会員及びその他

内容:大会基調講演、シンポジウム、ランチョンセミナー、一般演題、特別講演、教育講演、特別セミナー、招待講演、ポスター展示

「日本最大級のスポーツ・健康産業総合展示会SPORTEC2018」(連携企業等:SPORTEC実行委員会)

期間:平成30年7月25日(水)~27日(木) 対象:スポーツ関連企業、競技団体、プロスポーツ団体、学校、研究機関

内容:展示会、カンファレンス、セミナー、特別講演

「日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専任教員ミーティング」(連携企業等:公益財団法人日本スポーツ協会)

期間:平成30年8月27日(月) 対象:公益財団法人日本スポーツ協会認定校アスレティックトレーナー専任教員

内容:日本スポーツ協会からの情報提供(指導者制度の改定について、JSPO-AT教育制度の検討について)、AT専門科目検定試験(理論・実技)について(平成29年度検定試験結果について、平成30年度検定試験について)、実習「効果的授業・実技実習の方法」~予防とコンディショニング(テーピング)~

「GFI資格養成実技教員研修会」主催:公益社団法人日本フィットネス協会

期間:平成30年10月26日(金) 内容:GFI資格取得状況と卒業後の活動状況について、講演(株式会社東急スポーツオアシス)、「フィットネス基礎理論 筆記試験対策」について、「実技試験変更点について」WE(ウォーキング)、「実技について」AD(エアロビクダンス)・RE(レジスタンス)・SE(ストレッチング)・AQW(アクアウォーキング)・AQD(アクアダンス)、養成校・養成機関の活動報告

対象:GFI養成校専任教員及び実技担当教員

健康運動実践指導者養成校養成講座主任研修会 主催:公益財団法人健康・体力づくり事業財団

期間:平成31年3月17日(日) 内容:試験結果と今後の変更点、講義 対象:健康運動実践指導者養成校養成講座主任

②指導力の修得・向上のための研修等

「FDセッションコーチ勉強会」（連携企業等：一般社団法人滋慶教育科学研究所）

期間：平成30年6月5日（火） 対象：①FDマイクロレベル・レベルアップ研修修了者で学科長クラスもしくは、学科長が推薦する方
②FDミドルレベル研修修了者③FDマクロレベル研修修了者

テーマ：学習促進型コーチングを用いた事例検討におけるコーチ役を育成する

内容：○研修の目的○学習促進型コーチング（セッションコーチの役割と留意点、デモセッション）○スクリプトシートに基づく演習と振り返り○まとめ

「FDマイクロレベルフォローアップ研修」（連携企業等：一般社団法人滋慶教育科学研究所）

期間：平成30年6月6日（水） 対象：平成30年度新入職者FDマイクロレベル研修受講者で、教科授業を担当される教職員

テーマ：①FDマイクロレベル研修受講後の実際の授業の振り返りを行い、授業改善の工夫ができる②グループ（クラス）の成長を促すコーチングの基礎を学び、実践することができる③公開授業の実施と参加に向けて準備することができる

内容：○FDマイクロレベルフォローアップ研修の目的○授業リフレクション（授業リフレクションの進め方～グループと個人の成長を促すコーチングスキルについて～、コーチングスキルを用いた事例検討①、コーチングスキルを用いた事例検討②）○公開授業までの取組みとその方法について

「学科長対象FDマイクロレベル研修」（連携企業等：一般社団法人滋慶教育科学研究所）

期間：平成30年7月18日（水）～19日（木） 対象：学科長以上、またはそれに準ずる方

テーマ：①FDマイクロレベル研修の目的およびプログラム内容を理解し、スタッフの成長を促進することができる②「滋慶学園グループにおける授業のあり方」に沿って、授業改善のコーチングができる

内容：○FD研修の目的○滋慶学園グループのFD研修体系について○授業デザインとは○ティーチングの基本スキル○授業リフレクション○クラス運営のセオリー～専門学校の担任とは～○アクティブラーニングの理論と演習○公開授業までの取組みとその方法について

「教職員カウンセリング研修＜一次研修・二次研修＞」（連携企業等：一般社団法人滋慶教育科学研究所）

期間：＜一次研修＞平成30年10月2日（火）～3日（水）＜二次研修＞平成30年10月3日（水） 対象：学生対応、保護者対応を行う教職員＜一次研修＞教職員カウンセリング研修未受講者＜二次研修＞教職員カウンセリング一次研修を終了（合格）した者（二次研修未受講者）

内容：講義、事例検討、グループワーク、論述試験

「マネジメント研修」（連携企業等：一般社団法人滋慶教育科学研究所）

期間：平成30年10月24日（水） 対象： 学校長/顧問/各校・各企業マネージャークラス

内容：テーマ「マネジメント教育について」、講演、パネルディスカッション

「フォローアップ研修」（連携企業等：一般社団法人滋慶教育科学研究所）

期間：平成30年11月29日（木） 対象：平成29年度新入職研修受講者

内容：講義、事前課題セッション

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

「日本最大級のスポーツ・健康産業総合展示会SPORTEC2019」(連携企業等: SPORTEC実行委員会)
期間: 令和元年7月9日(火)～11日(木) 対象: スポーツ関連企業、競技団体、プロスポーツ団体、学校、研究機関
内容: 展示会、カンファレンス、セミナー、特別講演

「日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専任教員ミーティング」(連携企業等: 公益財団法人日本スポーツ協会)
期間: 令和元年8月26日(月) 対象: 公益財団法人日本スポーツ協会認定校アスレティックトレーナー専任教員
内容: 日本スポーツ協会からの情報提供(指導者制度の改定について、JSPQ-AT教育制度の検討について)、AT専門科目検定試験(理論・実技)について(平成30年度検定試験結果について、令和元年度検定試験について)、実習「効果的授業・実技実習の方法」～予防とコンディショニング(テーピング)～

「令和元年度アスレティックトレーナー連絡会議東北・北海道ブロックセミナー」(連携企業等: 公益財団法人日本スポーツ協会)
期間: 未定 内容: 未定 対象: 公益財団法人日本スポーツ協会アスレティックトレーナー資格取得者

「GFI資格養成実技教員研修会」主催: 公益社団法人日本フィットネス協会
期間: 未定 内容: 未定 対象: GFI養成校専任教員及び実技担当教員

健康運動実践指導者養成校養成講座主任研修会 主催: 公益財団法人健康・体力づくり事業財団
期間: 未定 内容: 未定 対象: 健康運動実践指導者養成校養成講座主任

② 指導力の修得・向上のための研修等

「学科長対象FDマイクロレベル研修」(連携企業等: 一般社団法人滋慶教育科学研究所)
期間: 令和元年5月30日(木)～31日(金) 対象: 学科長以上、またはそれに準ずる方
テーマ: ①FDマイクロレベル研修の目的およびプログラム内容を理解し、スタッフの成長を促進することができる②「滋慶学園グループにおける授業のあり方」に沿って、授業改善のコーチングができる

「FDセッションチーム勉強会」(連携企業等: 一般社団法人滋慶教育科学研究所)
期間: 令和元年6月11日(火) 対象: ①FDマイクロレベル・レベルアップ研修修了者で学科長クラスもしくは、学科長が推薦する方
②FDミドルレベル研修修了者③FDマクロレベル研修修了者
テーマ: 学習促進型コーチングを用いた事例検討におけるコーチ役を育成する
内容: ○研修の目的○学習促進型コーチング(セッションコーチの役割と留意点、デモセッション)○スクリプトシートに基づく演習と振り返り○まとめ

「FDマイクロレベルフォローアップ研修」(連携企業等: 一般社団法人滋慶教育科学研究所)
期間: 令和元年6月19日(水) 対象: 平成31年度新入職者FDマイクロレベル研修受講者で、教科授業を担当される教職員
テーマ: ①FDマイクロレベル研修受講後の実際の授業の振り返りを行い、授業改善の工夫ができる②グループ(クラス)の成長を促すコーチングの基礎を学び、実践することができる③公開授業の実施と参加に向けて準備することができる
内容: ○FDマイクロレベルフォローアップ研修の目的○授業リフレクション(授業リフレクションの進め方～グループと個人の成長を促すコーチングスキルについて～、コーチングスキルを用いた事例検討①、コーチングスキルを用いた事例検討②)○公開授業までの取組みとその方法について
内容: ○FD研修の目的○滋慶学園グループのFD研修体系について○授業デザインとは○ティーチングの基本スキル○授業リフレクション○クラス運営のセオリー～専門学校の担任とは～○アクティブラーニングの理論と演習○公開授業までの取組みとその方法について

「教職員カウンセリング研修<一次研修・二次研修>」(連携企業等: 一般社団法人滋慶教育科学研究所)
期間: <一次研修> 令和元年9月11日(火)～12日(水) <二次研修> 令和元年9月4日(水) 対象: 学生対応、保護者対応を行う教職員<一次研修>教職員カウンセリング研修未受講者<二次研修>教職員カウンセリング一次研修を終了(合格)した者(二次研修未受講者)
内容: 未定

「マネジメント研修」(連携企業等: 一般社団法人滋慶教育科学研究所)
期間: 令和元年10月8日(火) 対象: 学校長/顧問/各校・各企業マネージャークラス
内容: 未定

「フォローアップ研修」(連携企業等: 一般社団法人滋慶教育科学研究所)
期間: 令和元年11月29日(金) 対象: 平成30年度新入職研修受講者
内容: 未定

「FDレベルアップ研修」(連携企業: 一般社団法人滋慶教育科学研究所)
期間: 令和2年1月28日(火) (連携企業等: 一般社団法人滋慶教育科学研究所)
内容: 未定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

卒業生・保護者代表・近隣関係者・高等学校関係者並びに業界関係者により構成される学校関係者評価委員会は、この委員会が学校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通じて、学校運営の改善に活かす事を基本方針とします。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教員理念、目的及び育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

各委員より各項目について3段階評価で概ね「優れている」との評価を頂いた。また、「コミュニケーション能力の更なる向上」「資格取得の合格率アップ」「中途退学者の更なる低減」「基礎学力の向上」など多くのご意見も頂いた。運営会議、リーダー会議、学科会議、全体化などでこれらの意見を共有し、共有に向けた検討・環境整備に取り組んでいます。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 広人	理学療法科卒業生、みやぎ県南中核病院	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	卒業生
吉田 麻美	柔道整復科保護者	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	保護者
小笠原 朋之	聖ドミニコ学院中学校高等学校 校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	高等学校関係者
阿部 耕治	東八中央親交会 会長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	地域関係者
寺澤 豊志	公益財団法人 宮城県柔道整復師会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	業界関係者
渡邊 好孝	一般社団法人 宮城県理学療法士会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	業界関係者
矢萩 裕	山形県トレーナー協会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	業界関係者
小林 茂樹	宮城県眼科医会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() 公表時期: 平成30年8月31日

URL: <http://www.sendai-iken.ac.jp>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

事業計画の実行方針で提起された目標(中途退学者の低減、就職率100%、国家試験等各種資格試験合格率100%等)を具現化するために、企業等からヒヤリングを行い、業界の動向を踏まえた実行計画を作成しています。企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、業界関係者である兼任教員(非常勤講師)との講師会、キャリアセンタースタッフによる企業訪問等あらゆる機会を活用して積極的に情報提供を行っています。また、実習中は実習先に教員が訪問し学生の実習状況の確認及び指導も行っています。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	建学の理念、コンセプト、学校長・所在地・連絡先・沿革、その他諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	入学者に対する受入方針・定員、カリキュラム、卒業進級判定基準、資格、卒業後の進路
(3)教職員	教職員数、教員の実績、学校組織図
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み状況、就職指導マニュアル
(5)様々な教育活動・教育環境	校舎設備紹介、課外活動
(6)学生の生活支援	学生支援への取組み、健康管理
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧・諸費用について、奨学金
(8)学校の財務	財務資料
(9)学校評価	学校関係者評価委員会
(10)国際連携の状況	海外実学研修、留学生支援・受入状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.sendai-iken.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ科学科) 令和元年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			一般教養Ⅰ	社会人として必要とされる教養やマナーを幅広く学習する	1前	30	2	○			○		○		
○			一般教養	社会人として必要とされる教養やマナーを幅広く学習する	2前	30	2	○			○		○		
○			コミュニケーションスキル	社会的節勝に必須のコミュニケーションスキルについて基礎的な知識や方法を学習し、検定取得を目指す。	1後	30	2		○		○		○		
○			英会話	グローバルな感性を養い、国際人として必要な日常英会話の基本を学習する。	1前	30	2	○			○			○	
○			情報技術Ⅰ	Windowsの基本操作の習得とWord, Excel, Powerpointの基本的操作を学習する。	1前	30	2	○			○				○
○			スポーツ生理学Ⅰ	運動によって生じる身体の機能的変化や適応について学習する。	1前	30	2	○			○				○
○			機能的解剖学Ⅰ	人体の構造や生理学的しくみを学習し、生命の営みを理解するとともに、生体の恒常性について考える。	1前	30	2	○			○				○
○			機能的解剖学Ⅱ	人体の構造や生理学的しくみを学習し、生命の営みを理解するとともに、生体の恒常性について考える。	1後	30	2	○			○				○
○			体力測定法	体力測定に関する理論と方法を学習し、データ解析法や判定法による実践指導を学習する。	1後	30	2		○		○				○
○			発育発達	発育段階に応じた身体の機能的変化や適応について学習する。	2前	30	2	○			○				○

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ科学科) 令和元年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			スポーツリーダーⅠ	スポーツを取り巻く地域社会の役割や機能について学習する。	1前	30	2	○			○			○	
○			スポーツリーダーⅡ	スポーツ指導者と競技者の望ましい関係性を理解し、競技者育成のための指導計画の立て方を学習する。	1後	30	2	○			○			○	
○			スポーツ医学Ⅰ	スポーツ関わる基礎的な医学知識を学習する。整形外科的障害のみでなく、内科的疾患についても学習する。	1前	30	2	○			○			○	
○			救急処置法Ⅰ	救急処置の基本的知識から、スポーツ現場における外傷時の救急処置、緊急時の救命処置法を学習する。	1前	30	2		○		○			○	
○			健康管理概論	健康づくりや疾病予防の基礎的な知識や考え方を理解し、年代層に応じた健康指導を学習する。	2前	30	2	○			○			○	
○			スポーツ栄養学Ⅰ	栄養学の基礎を学び、一般人やアスリートに対する栄養摂取と食生活について学習する。	1前	30	2	○			○			○	
○			スポーツ心理学Ⅰ	スポーツ活動について心理的側面から学習し、運動意欲を高め効果的な成果を獲得するための知識を習得する。	1前	30	2	○			○			○	
○			スポーツ心理学Ⅱ	スポーツ心理学を理解し、応用するための基礎を学習し、現場に生かせる心理技法を習得する、	2前	30	2	○			○			○	
○			トレーニング演習	トレーニングの原理原則を理解し、トレーニング計画のたて方を学習する。	1前	30	2		○		○			○	

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ科学科) 令和元年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			レジスタンストレーニングⅠ	レジスタンストレーニングを指導するための基礎的知識および指導法を学習する。	1前	30	2	○			○			○	
○			レジスタンストレーニングⅡ	レジスタンストレーニングを指導するための指導法を学習する。	1後	30	2	○			○			○	
○			エアロビックダンスⅠ	エアロビックダンスの特性を理解し、正しいステップの基礎をマスターする。	1前	30	6	○			○			○	
○			エアロビックダンスⅡ	筋コンディショニングを含むエアロビックダンスの応用プログラムをマスターする。	1後	30	2	○			○			○	
○			ウォーキング・ジョギング	ウォーキングとジョギングの特性を理解し、基本的指導法をマスターする。	2後	30	2	○			○	△		○	
○			アクアビクス	アクアビクスの特性を理解し、基本的指導法をマスターする。	1後	30	2	○			○			○	
○			水泳	水中運動の特性を理解し、4泳法の基礎をマスターする。	1前	15	1	○			○			○	
○			進路指導	研修、就職活動、資格取得に向けての準備などに必要な知識やマナーを学び、進路決定を行う。	1後 2前	30	2	○			○			○	
○			進級制作	1年次で学習したことや体得したことを、個人やグループでテーマを設定し、過大に取り組む。	1後	60	4	○			○			○	

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ科学科) 令和元年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作	2年間で学習し体得したことを、個人やグループでテーマを設定し、課題に取り組む。	2通	90	6			○	○	○			
		○	海外実学研修	海外の再選他のスポーツ関連施設や提携教育施設で実習を行う。併せて、国際性を持った人格を養う。	1後	60	4			○	○	○			
○			実技宿泊演習	3泊4日の宿泊実習を通じて、規則正しい生活習慣を見直すとともに各コースの専門性を高める。	2後	30	2			○	○	○	△		
○			業界研修Ⅰ	志望する業界で研修を行い、これまで学んだ知識・技術を実践で確認することにより、就職活動に繋げる。	1後	60	2			○	○	○	○		
○			業界研修Ⅱ	志望する業界で研修を行い、これまで学んだ知識・技術を実践で確認することにより、就職活動に繋げる。	2前	60	2			○	○	○	○		
		○	ゼミ	業界より特別講師を招き、業界の最新情報等についての講義を行う。	随時	時数による				○	○	○			
		○	特別講義	業界より特別講師を招き、業界の最新情報等についての講義を行う。	随時	4回で1単位				○	○	○			
		○	ボランティア	学外の課外活動として、各種大会などのボランティア活動を行う。これらの経験からリーダーシップやフォロワーシップ等を体得する。	随時	時数による				○	○	○			
	○		トレーニング科学	あらゆる対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムの作成と指導について学習する。	1後	30	2			○	○	○			

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ科学科) 令和元年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		スポーツバイオメカニクス	筋骨格の基礎と力学的知識を習得し、各種基本運動動作を学習する。	1後	30	2	○			○			○		
	○		スポーツ生理学Ⅱ	運動器や呼吸循環器の機能を理解したうえで、疲労の原因やトレーニング効果について学習する。	1後	30	2	○			○				○	
	○		スポーツ医学Ⅱ	上肢のスポーツ外傷・障害の病態や発生機序、診断方法、徒手検査について理解し習得する。	1後	30	2	○			○					○
	○		スポーツ医学Ⅲ	下肢のスポーツ外傷・障害の病態や発生機序、診断方法、徒手検査について理解し習得する。	2前	30	2	○			○					○
	○		スポーツ内科学	競技者の内科的疾患の対処法やメディカルチェックを学習する。また感染症の対応策を習得する。	2前	30	2	○			○					○
	○		スポーツ栄養学Ⅱ	運動と栄養について知識と理解を深める。スポーツ選手に対する栄養指導の留意点や指導法を学習する。	1後	30	2	○			○					○
	○		アスレティックトレーナー論	アスリートを総合的にサポートするためには、正しい知識や技術の習得が必要であることを学習する。	1後 2前	60	4	○			○			○		
	○		アスレティックトレーナー講座	パフォーマンス維持向上を目的とした外傷予防や応急措置、再発防止に関する知識と技術を学習する。	2後	30	2		○		○					○
	○		測定評価Ⅰ	アスレティックトレーナーに必要な評価や検査測定法、動作の観察力と分析力を学習する。	2前	30	2	○			○					○

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ科学科) 令和元年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		測定評価Ⅱ	評価の意義と考え方を学習し、問題点抽出から改善までの過程を理解する。検査測定の手技を習得する。	2	30	2		○		○			○	
	○		コンディショニング理論演習Ⅰ	コンディショニングの方法と目的を理解する。競技特性、外傷予防法を学び、現場へ知識を還元する。	1後2前	60	4		○		○				○
	○		コンディショニング理論演習Ⅱ	マシンやフリーウェイとによるトレーニング法や正しいフォームを理解し人に伝える能力を身に付ける。	2後	30	2		○		○				○
	○		アスレティックリハビリテーションⅠ	四肢のアスレティックリハビリテーションに必要な評価測定、物理療法、補装具について学習する。	1後2前	60	4		○		○				○
	○		アスレティックリハビリテーションⅡ	体幹部・頸部のアスレティックリハビリテーションに必要な評価測定と障害別計画立案を学習する。	1後2前	60	2		○		○				○
	○		アスレティックリハビリテーションⅢ	受傷直後から機能回復期の各段階、種目運動別リハビリテーションについて実例を通して学習する。	2前	30	2		○		○				○
	○		現場実習	スポーツ現場での見学や実習を行い、専門分野で学んだ知識・技術を実践で確認する。	1通	90	3				○	△	○	○	△
	○		AT現場実習	スポーツ現場での見学や実習を行い、専門分野で学んだ知識・技術を実践で確認する。	1通	90	3				○	△	○	○	△
	○		スポーツ実技Ⅰ	屋内スポーツとして、乳幼児から高齢者を対象とした体操やトレーニングを実践を通して学習する。	1後	30	2		○			○			○
	○		スポーツ実技Ⅱ	屋外スポーツとして、発育発達段階に応じた運動遊びやゲームの指導法を実践を通して学習する。	2後	30	2		○			○			○

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ科学科) 令和元年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		コーチング論	指導者として必要なコーチングスキルについて実践と講義を通して学習する。	2後	30	2		○		○			○	
	○		レクリエーション演習	レクリエーションの基礎的理論と指導者の役割、指導法について学習する。	2後	30	2		○		○				○
	○		総合型地域スポーツクラブ実習	総合型地域スポーツクラブにおいて実習をするための指導計画書の作成、プレゼンテーションを行う。	2後	30	2		○			○			○
	○		スタジオプログラム	フィットネスインストラクターに必要なグループエクササイズの指導理論について学習する。	2通	60	4		○		○				○
	○		介護職員初任者研修講座	介護職員初任者研修の資格取得を目指す。	1通	120	8		○		○	○			○
		○	各種受験対策	各種試験、資格の取得を目指した筆記及び実技試験の対策を行う	2通	60	4		○		○		△		○
○			情報技術	Windowsの基本操作の習得とWord, Excel, Powerpointの基本的操作を学習する。	2前	30	2	○			○				○
○			グループエクササイズ	健康体づくりを目指した運動の集団指導ができるようになる。	1後	30	2	○			○				○
○			テーピング	スポーツ現場で起こる怪我の対応に必要なテーピングが負けるようになる。	1前	15	1	○			○				○

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ科学科) 令和元年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	障がい者スポーツ初級指導者講座	障がい者スポーツ指導者に必要な基礎知識を学び、初級指導員資格取得を目指す。	2後	30	2		○		○			○	
		○	SAQレベル1インストラクター講座	スピード、敏捷性、素早さのトレーニング方法を学び、SAQレベル1の資格取得を目指す。	2通	60	4		○		○			○	
○			救急処置法Ⅰ	救急疾病や外科的損傷の病態を説明でき、発生時の対応や予防ができるようになる。	1前	30	2		○		○			○	
		○	救急処置法Ⅱ	救急処置の基本的知識を身につけ、スポーツ現場における外傷時の吸収処置、緊急時の救命処置ができるようになる。	1前	30	2		○		○			○	
○			救急処置法	救急処置の基本的知識から、スポーツ現場における外傷時の吸収処置、緊急時の救命処置法を学習する。	2前	30	2		○		○			○	
		○	スポーツマネジメント	スポーツ現場をマネジメントするための知識を身につけ、実務ができるようになる。	1後	30	2		○		○			○	
		○	JDACダンス指導員講座	JDACダンス指導員の資格取得ができる。	1後	15	1		○		○			○	
合計					60科目		1,740単位時間(104単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
授業科目の成績評価は、学年末において各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行い、校長は課程修了の認定を行う。	1 学年の学期区分	前・後期
	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。